

踏まれ踏まれても生き返る

NO.40 2025.11.7

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

com-matchan@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録
地域自主活動グループのWEBページでも閲覧できます。ほかのグループのレポートも見てください。

あれほど暑かったのに、気が付いたら冬間近



セイタカアワダチソウ キク科

立派な外来種。元々は観賞のための切り花用に移入されたということですから、見ごたえある花ではあります。

でも、自生の野草がたくさん生きている都立赤塚公園では外来種で繁殖力が強く、しかも草丈が高く、ほかの野草の生育を脅かしてしまうので歓迎されていません。一方で、過剰な草刈りで殺風景になったまちなかにこの草が生えていると、とても豪華な花のように見えてくるのが不思議です。

どういう訳だか・・・

石神井川に錦鯉が現れた

川の生態系も崩れる一方



街路樹の秋

ミズキ科の実がきれい！

←（常緑）ヤマボウシ



赤塚公園や古い街路で見られるヤマボウシは落葉樹なので、秋になっても葉が紅葉しないこの木は何だろう？ 調べると「ジョウリョクヤマボウシ」だって。多分、園芸品種です。おいしそうな実は食べられるけれど、おいしくはないという話。

ハナミズキ→

こちらは紅葉中。花はお馴染みですが、実も美しい！

■■■■高市内閣発足 1 か月足らず■■■■

平衡していた**政治の天秤**が**グラリ**と**右に傾く** そんな中で**公明党の連立離脱**は快挙

高市早苗政権が発足して以来、もうすぐ1か月。これまで何とか平衡を保ってきた日本の政治の空気は、例えばYAHOOのwebニュースでは共産党や立憲民主党などの野党勢力の言動に冷たくヒステリックな批判が飛ぶなど大きく右に傾いています。

そんな中で、公明党が連立政権を離脱したことは「唯一の救い」です。公明党の母体の創価学会が信奉する日蓮上人は乱世の鎌倉時代に「立正安国論」を唱えて、世の中のあり方を説いた人で、政治色が強い宗教でした。だから、この宗教が政治に乗り出すことは不思議ではないのですが、創価学会の母体となった「創価教育学会」（1937＝昭和12年設立）の初代会長牧口常三郎も理事長戸田城聖も、第二次世界大戦中にはほかの幹部とともに治

安維持法違反並びに伊勢神宮に対する不敬罪で特別高等警察に逮捕され、牧口は獄死、戸田は終戦によってようやく身柄を解放されるという苦勞をしてきた人たちと宗教です。

公明党の連立離脱の最大動機は政治資金の問題ですが、もともと天皇制復活を狙う自民党と組んで政治を動かそうとすること自体が無理だったとも言えます。

いつ自民党と同質になるかわからない野田佳彦という党首を担ぐ立憲民主党とともに、戦争反対・天皇制復活反対・憲法改悪反対の立場を堅持して、少数でも頑張る政党が存在し続けることは重要なことです。

わたしは公明党支持ではありませんが、この際、細かいことは言いません。頑張ってもらいたいとの思いを強くしています。